

業務の新聞

第18号

平成30年

3月14日

会社から提案される1

3/13、支社より「東京総合車両センター業務委託拡大について」との提案を受けました。

「～エルダー社員の技術力・ノウハウを活かせる仕事の間を拡大～技術力・ノウハウを後進へ確実に継承し育成することを目的～」として以下の業務を①車体検修場における車両検修作業など（車体ABC班の業務の一部）②空制部品検修作業③ユニットブレーキ検修作業の一部④主電動機検修作業の一部を6/1から委託する。としています。

関係分会・組合員と十分協議し、より良い施策の実施に努めます。

コミュニケーション?!

「優秀な人材を確保するために」様々な職場で“職場環境改善”を会社は、進める・進めていると支社の方が話していました。「職場の声を聴きながら取り組む」と言う支社の指示もあるようです。

しかし、ダイヤ改正などの交渉では、私たちの“職場環境改善”は、残念ながら実現していません。

“改善する、職場の声を聴きながら”と言いつつ、会社の真意がどこにあるのでしょうか？

今後も粘り強く、仲間たちの声を実現するために職場のコミュニケーションを大切に努力していきます。

会社から提案される2

3/13、「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進による委託拡大」の提案を受けました。

「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」は、「～エルダー社員の技術力・ノウハウを活かせる仕事の間を拡大～技術力・ノウハウを後進へ確実に継承し育成することを目的～」に行うとしています。

①田町センターにおける構内入換業務、仕業検査業務の委託。②業務委託に伴い助役及び事務体制を見直す。としています。

論議の中で、会社から提案された二つの案件は、「エルダー制度を利用する社員のため」と話されました。残念ながら、施策が“立体的”ではないため、“関連性”も希薄でスケジュール感にも疑問を感じます。

職場の仲間たちは、自身と家族の将来を真剣に考えています、仲間たちの声をしっかりと受けとめ取り組みます。

2018春闘

春闘集会への参加、檄色紙の取り組みなどすべての組合員が“たたかい”に決起しています。

新聞などでは、自動車業界などをはじめとして『ベア実施』『一時金満額回答』と“景気の良い”話が報じられています。

皆さんご存知のように、JR 東日本の収支状況は、継続した右肩上がりを維持しています。数字的にも他業種に負けてはいません。

私たちの努力が、好調な経営状況をつくりだしたと会社経営陣も評しています。その言葉を私たちのたたかいで、形にしましょう。

さあー！俺たちの要求を実現するために、もうひと頑張りです。

“沈黙は金”ではありません。座していても“エサ”を貰うこともできません。

もっともっともっと、声を聴きながら声を出していきましょう。